

会 議 議 事 録

1 会議名	令和7年度第2回長岡市公立大学法人評価委員会
2 開催日時	令和7年7月8日（火）午後3時30分から5時まで
3 開催場所	まちなかキャンパス長岡 3階 301会議室
4 出席者名	（委員）三上委員長 水澤委員 並木委員 楨委員 （説明のために出席した関係者） 公立大学法人長岡造形大学 佐々木理事長 公立大学法人長岡造形大学 平山学長 公立大学法人長岡造形大学 安達副理事長 公立大学法人長岡造形大学 高橋事務局長 公立大学法人長岡造形大学 野上事務局次長 公立大学法人長岡造形大学 佐藤財務課長 公立大学法人長岡造形大学 三重堀財務課係長 （事務局）長岡市地方創生推進部 五十嵐部長 長岡市政策企画課 中村課長 長岡市政策企画課 上村課長補佐 長岡市政策企画課 相川係長 長岡市政策企画課 浅野主査
5 欠席者名	草間委員
6 議事	（1）令和6年度業務実績報告書について （2）第3期中期目標（原案）について （3）役員報酬規程の改正について
7 審議結果の概要	議事（1）について、委員と大学との間で質疑応答を行い、今後の評価書づくりに反映させていくこととなった。 議事（2）について、委員から発言があり、目標案に反映させることとなった。 議事（3）について、委員から意見はなかった。

8 審議の内容	
事務局・政策企画課課長補佐	本日は、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。 これより、令和7年度第2回長岡市公立大学法人評価委員会を開催いたします。はじめに五十嵐地方創生推進部長より御挨拶申し上げます。
事務局・地方創生推進部長	(部長挨拶)
事務局・政策企画課課長補佐	本日の評価委員会は、委員5名のうち4名が出席されておりますので、長岡市公立大学法人評価委員会条例第5条第3項の規定を満たしていることを御報告いたします。なお、このたびの評価委員会は、長岡造形大学の佐々木理事長、平山学長、安達副理事長、高橋事務局長、野上事務局次長、事務局職員2名に出席いただいております。 それでは、佐々木理事長から一言御挨拶をお願いします。
理事長	(理事長挨拶)
事務局・政策企画課課長補佐	佐々木理事長、ありがとうございました。 それでは、議事の進行を三上委員長をお願いしたいと思います。三上委員長、よろしくお願いいたします。
委員長	それでは、進行を務めさせていただきます。 議事を進める前に、今回の評価委員会の議事録署名人を決めたいと思います。水澤委員と楨委員のお二人をお願いしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。 (水澤委員、楨委員 了解) それでは議事に入ります。今回の議事は3件です。 1件目は、令和6年度業務実績報告についてです。大学から自己評価の説明をしてもらい、それについて各委員から御質問と御意見を伺います。財務状況については参考情報として御説明いただければと思います。 2件目は、第1回評価委員会の内容などを踏まえて事務局が作成し

財務課長	た第3期中期目標原案について、各委員から御意見を伺いたいと思います。 3点目は役員等報酬規程の改正について、事務局から説明いただき、各委員から御意見を伺いたいと思います。 では、議事（1）令和6年度業務実績報告について、大学側から説明をお願いします。 （資料1により説明）
委員長	ありがとうございました。 委員の皆さんから御質問などありましたら、お願いします。
委員	通番16番、「地域社会、地域の企業、高等教育機関、自治体等と連携する『地域協創演習』をはじめとした演習、実習を開講する。」とありますが、これだけたくさんのプロジェクトに参加し、一生懸命やっていたら、20ページの地域社会や地域の企業等との連携の項目ではa評価がついている。どうして通番16番ではb評価になってしまうのか、お聞かせください。
事務局長	通番16番については、18プロジェクトの実施と、参加人数は延べ200名程度ということで、例年と同じような数字というところもあってb評価としました。 御指摘いただいたとおり、多くのプロジェクトを実施し、学生もたくさん参加してくれたのでa評価ということも検討しましたが、そのような理由でb評価としました。
学長	社会参加を伴う授業については、学生には必修で4年間のうち1つは受講させています。最初はフェニックス花火の募金活動に参加するところから始めて、募金活動に行く学生が10人を超えるようになりました。近年では学生が様々な活動に参加している実績があります。 数字的には例年と同じぐらいなのでこのように自己評価しました。
委員	私も全く同じことを思っていました。b評価ではなくa評価で良いのではないかと。 実績報告書を読ませていただいて、例年実施されていることでも、おそらく高いレベルで実施されているのだらうと思いました。これだ

	け多くの学生が参加し、なおかつ地域に貢献されています。地域に根付く大学としての実績という意味ではすごく素晴らしいことだと思います。今後さらに推進していったほしいという期待も込めて、例年実施しているかもしれないですが、十分 a 評価に値するのではないかと思います。
委員長	私も同感です。対前年度評価ではなく、絶対値として評価されて良いと感じました。
学長	このプロジェクトを見ていただくとわかるかと思うのですが、単純な力仕事で参加するだけではなくて、デザインの、例えば「①日本精機と考える新しい生活スタイル」であるとか、本学の専門性に特化したプロジェクトになってきたことを実感しております。「⑩文具館・新商品開発プロジェクト」では、大学周辺の企業と継続的に取り組んでいます。連続的、継続的にこのような活動を行い、学生たちも前年度を参考にに取り組むことで、より高いレベルになってきたと感じています。
委員長	a 評価の数は全体のうち何%までといったルールはありますか。
事務局	ありません。
委員長	例えば、5 ページから 4 つの柱ごとにポイントが書いてあり、頑張ったことが書かれていると思うので、これが a 評価の見出しなのかなと思っていましたが、そのうちの一部にしか a 評価をつけられていません。
委員	7 ページの指標単位評価の評価区分について、「年度計画を上回る」という表記があるので、年度計画を数値的に上回ったかと言えばそうではないと実直に評価されたのかもしれませんが。 件数や参加人数が前年度を上回ったかどうかということもありますが、例えば、同じ数値でも 2 年間続けた年月の蓄積ができたということでもあり、経年的な積み重ね、価値があるということが今の委員の皆様御意見のニュアンスなのかなと思います。 蓄積された価値、地域に対する貢献度の評価は、そのベースとなるものが低下しない限りは価値が上がっていると評価をしなければ、年々、積み重ねている努力への評価が抜け落ちてしまいます。

委員	量だけでなく質ということですね。
委員長	指標単位評価の評価区分は年度計画を上回るか否かというところですが、事業単位評価の評価区分はどう定義されていますか。
副理事長	各年度の年度計画を作り、その目標に対して超えたか、上回ったか、概ねだったかという評価をしています。定性的に明らかに上回ったという評価がなかなか難しいところもありまして、厳格に自己評価をしています。
委員長	これまでの大学の自己評価の経験からしても、もう少し s 評価をつけても良いのではないかと感じました。 例えば、入学者が全国からこれだけ集まっているということも本当は評価してよろしいのではないかなと思います。この事業単位評価では、控えめに埋没していると感じます。
委員	通番 43 番について、国際交流事業支援奨学金の実績として 8 事業で 21 人の参加とありますが、これは学生が実際に海外へ行く事業と理解してよろしいでしょうか。主だったもので良いので、どのような活動をしているかお聞かせください。
学長	海外の大学や組織が企画したサマーセミナーやスプリングセミナーなど、しっかりとした計画があるものに対して、学生が希望するものに参加します。 最初は提携大学のセミナーのみを対象としていましたが、本学は提携大学が少ないことも考慮し、学長が認めたセミナー等に対しても支援できるよう定めたことで、学生が自分に適したセミナーを探せるようになり、非常に大きな実績になってきたということで、なかなか喜ばしいことです。 事務局が学生ニーズに応じて、最低限の手助けで学生たちが喜んでくれる国際交流という形ができてきたので、良い状況になっています。
財務課係長	具体的には、本学と交流協定を結んでおりますドイツの大学やハワイの大学との取組への参加が中心ですが、それに準ずる形で建築に関する海外での取組ですとか、そういったものも近年では多くなってい

	ます。
委員	8事業ということは、1事業に2、3人で仲間と一緒に参加するというケースが多いのでしょうか。
学長	何年か続けているなかで、先輩が行ったことがきっかけで、それなら私も行きたい、という学生が多くなっています。
委員	良い取組だと思います。学生たちが相談しながら自ら企画をして海外に出かけて行って、またそれを共有して持って帰って。学長がおっしゃるように、それが次の学年に繋がっていく。大学に戻ってきてからプレゼンもされるでしょうから、そうすることで次の学年の学生も自分も行ってみたいという気持ちになる。そういう形で自主的に日本の外に出て行くという機会を与えています。地道な話だと思いますが、これが積み重なっていくと、非常に良いマインドができるのではないかと思います。ぜひ続けていただきたいと思います。
学長	参加した学生たちには、必ず報告会をしてもらいます。昼休みの短い時間ですけれども、zoomを併用して、多くの学生が見られるように工夫しており、それらの取組の成果であると考えています。
委員	期間的にはどのくらいですか。
財務課係長	半年から1年程度の期間を留学という形で利用する学生もおりまし、短期で1、2週間程度で韓国のサマースクールや欧米のセミナーに行く場合もあります。
委員長	指標単位評価で、「年度計画を大幅に上回る」評価が4項目ありますよね。おそらく、こういう高い指標を達成できたのは事業としてこの取組が効いたからだ、とかそういう関係があるのではないかと思います。そうすると、指標単位評価と事業単位評価がアンバランスなのではないかと思います。数字的にはそれほどでもないけれど質が良い取組というものが拾いきれず、勿体ない評価になっていっているという気がします。 例えば、指標単位評価で「年度計画を大幅に上回る」評価としたものに対して、事業の中で何番と何番の取組が効果があった、という関連があれば、その事業は、指標成果として「年度計画を大幅に上回る」

事務局長	評価に結びつく取組だったということで自己評価でも自信を持って s 評価をして十分説得力があるのではないかと思います。 アウトカムに非常に良い影響をもたらした効果的な取組だったということで、評価をアップグレードしていただいたらどうですか。 また、博士、修士の定員充足達成は昨年度が初めてですか。 そのとおりです。
委員長	そうすると、何らか効果があつた取組があるのではないかと思いますし、そういうところも評価されたら良いのではないかと思います。 教育に関する目標を達成するための措置には 44 項目あり、事業単位評価の s、a、b、c、d 評価の定義は年度計画との対比ということになっているのでしようけれども、年度計画で意欲的な目標を決めてしまうと、達成しても平凡な評価になってしまいます。むしろ、内容に即した実質的な評価をしても良いのではないのでしょうか。
事務局長	大学院の例で言いますと、数値目標が設定されていますので、昨年度は 100%を超えたということで自己評価をしております。
委員長	これは基準がはっきりしてるので、それはそれで良いと思います。でも、やはりその目標をクリアできたのはなぜかと考えてみると、実際の取組の中で頑張ったものの効果があるのだと思います。
学長	指標を超えるための取組ということであれば、個人的には通番 24 番「必要となる設備、機器について、時代の潮流及びデザインを考慮し整備する。」という項目に対し、第 4 アトリエ棟を竣工したことは特筆するものだと考えています。
委員長	s 評価の候補ということですね。 また、地域協創演習なども、毎年、多彩で素晴らしい取組をされています。地域社会との関係で高い評価に値するのではないのでしょうか。
委員	毎年、高いレベルの取組をされていて、継続できているということは勿論、質も上がっていますし、地域への貢献度も継続されています。
理事長	自己評価に対する議論は内部でもしておりますが、今日は温かい御

委員	言葉を頂戴し、身の引き締まる思いです。逆にこの評価では高いのではないかというところも、ぜひ御指摘いただければと思います。職員と話をしておりますと、やると言ったことはやる人たち、そんなチームだなと思いますが、もし、もう少しできたのではないかとお気づきの点があれば御指摘いただけましたら幸いです。 当たり前のことを当たり前にやるというスタンスが志願者の維持にもつながっていると思います。志願者や入学者を一定以上確保できているということは、やはり大学の知名度や貢献度だけでなく、経営的に安定するための大事な要素なので、そういうところも評価に繋がると良いのではないのでしょうか。 今回の自己評価では、事業単位評価と指標単位評価とがアンバランスな感じがしています。指標単位評価は全部達成してるのに、事業単位評価では全体的にs評価もなく、a評価もあまりなくて、ほとんどb評価。これだと、ただ実行したということにとどまっていることになってしまいます。しかし、そういう厳しい、自分で律しているという姿勢や考え方が、良い意味で今の長岡造形大学を作っている精神なのかなとも思います。
委員	この評価書は、市議会への報告や文科省へ提出などされるのでしょうか。評価自体は最終的にはどのような形で反映されるのかお聞かせください。例えば、良い点数をつけると、補助金が増えるとか、あるいはそういうことは全く関係ないのでしょうか。
副理事長	中期目標に基づいて中期計画や各年度の年度計画を作成し、毎年度の計画の評価を積み重ねることで、中期目標期間終了時に、私ども法人が大学事業を続けて良いかどうかということ判断していただく評価につながるものです。補助金の額には影響はありません。 本学が市立大学として、税金を使って続ける必要があるかということ、市民の皆様に判断していただくということになります。
委員長	もう少し自信をもって自己評価されてもよろしいのではないのでしょうか。 指標を満たしたということは、それに結びついた優れた取組があったに違いないということです。 それらを踏まえて評価委員会としての評価は上げる方向で、事務局は今の議論をもとに評価書案の作成を進めてください。

	委員の皆さんも、これだけ県外からも学生が集まって、長岡で地域活性化をはじめとした様々な取組をされていることに好印象をお持ちですので、そういった点も改めて評価をして自己主張をするということ、市民の皆さんへのアピールも重要です。
委員長	それでは次に、議事ではありませんが、参考まで、令和6年度決算の概要について大学側から説明をお願いします。
財務課長	(説明)
委員長	ありがとうございました。 いまほどの説明について、御質問がありましたらお願いします。
委員長	受託研究等収入の決算額が、予算額と比較して3倍程度に増えていますが、内容について教えてください。
財務課長	金額ベースで一番大きいのは、東京藝術大学が国に採択されたプロジェクトに参加協力したものです。10年間のプロジェクトの2年目として約1,040万円。そのほか、民間企業からは、歴史的建造物の保存対策調査で300万円から400万円程度。 あと、長岡市から地域おこし協力隊(半学半域型)の委託料として約350万円。いのプロと呼んでいる取組で、半分大学院生、半分地域おこし協力隊として活動するプログラムです。 以上、件数で言いますと12、13件ありまして、その他は50万円から100万円の受託研究等です。
委員長	研究に関する目標の達成度合いで見ると、4つの指標が全て100%を超えていますが、事業単位で見ると該当する項目はa評価ですら1個だけです。様々な努力をされて、外部資金の獲得について成果を上げられた効果だと思います。その点も、事業単位の評価が見直されて良いのではないかと思います。 次期中期計画でも、外部資金の獲得について努力しなければならないと思いますが、現時点でも既に、いろいろと成果を挙げられていますので、大いにアピールしていただきたいと思います。
委員長	それでは、皆様よろしいでしょうか。 続きまして、議事(2)第3期中期目標原案について事務局から説

	明をお願いします。 (資料 2 を基に説明)
事務局・政策企画課長	
委員長	ありがとうございました。 いまほどの説明について、御質問がありましたらお願いします。
委員	「4 その他業務運営に関する目標」について、これはコンプライアンス、リスクマネジメントに関する項目ですよね。 企業では、いわゆる社外通報制度ということで、労働組合に直接通報するルート、弁護士に通報するルート、社外取締役に通報するルートなどがあり、また社内的にも通報するルートがありまして、恣意的な妨害を避けてストレートに抱えてる問題を明らかにする体制があります。この原案にも、法令遵守をはじめ十分書いてあるのですが、あくまでリスクマネジメントの面として読み取れます。企業であれば、何か問題が起きたときに全体が集まって、審議をして歯止めをかける。他大学でのコンプライアンスに関わるニュースを聞くこともありますので、造形大では有り得ないこととは思いますが、起きたときには大変な事態になってしまいます。ぜひ、考えていただきたいと思います。
委員長	危機管理の記載はありますが、委員が言われたニュアンスと合うかと言えば少し違う印象もあります。 危機管理というよりもその前の段階なんですかね。トラブル防止というのかな、何か良い言葉が見つければ原案に反映してください。
委員長	パブリックコメントでは何人から御意見がありましたか。
事務局・政策企画課長	6 名から御意見がありました。具体的な取組についての御意見も多くございましたので、それについては今後策定する中期計画等の参考にさせていただきます。 例えば、地元進学の地域優先枠を充実させる、最新のデジタル技術を活用した教育プログラムの導入等の御意見がありました。
委員長	長岡市在住者とそれ以外の学生では、入学料の差額はいくらですか。

財務課長	長岡市外からの入学生は、一般的な国立大学と同額の 28 万 2,000 円、長岡市在住者は半分の 14 万 1,000 円です。
委員長	差があるのは入学料だけで、授業料は同額でしょうか。
財務課長	そのとおりです。
委員長	皆様よろしいでしょうか。 それでは、委員の皆さんの意見をもとに、中期目標案を大学側に意見照会していただきたいと思います。
	では最後に議事（３）「役員報酬規程の改正について」に移ります。 事務局から説明をお願いします。
事務局・政策企画課長	（資料３に基づき説明）
委員長	ありがとうございました。 委員の皆様から御意見がありましたらお願いします。
	（意見なし）
委員長	皆様よろしいでしょうか。 本日予定していた議事は以上となります。 進行に御協力いただき、ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。
事務局・政策企画課長補佐	三上委員長ありがとうございました。 最後に今後の流れについて事務局からご連絡いたします。
	（次回会議日程等について説明）
	それでは、以上をもちまして「令和７年度第２回長岡市公立大学法人評価委員会」を終了いたします。ありがとうございました。

上記議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名する。

委 員

委 員

9 会議資料

- 次第・出席者名簿
- 資料 1 令和 6 年度業務実績報告書
- 資料 2－1 公立大学法人長岡造形大学第 3 期中期目標（原案）
- 資料 2－2 第 3 期中期目標（素案）に対する主な御意見について
- 資料 3 公立大学法人長岡造形大学役員報酬規程